佐藤りつ編

妙法寺物語

翻刻篇

古典文庫

佐藤りつ編

如儀寺物語

翻刻篇

古典文庫

古典文庫第二八二冊

昭和四十五年十二月十五日印刷発行　　非売品

女郎花物語
翻刻篇

編者　佐藤りつ

発行者　吉田幸一

東京都板橋区熊野町三四

印刷者　帝都印刷製本株式会社

発行所　114　東京都北区西ケ原三ノ三四ノ一二　古典文庫

電話（九一〇）二七一七
振替口座東京一四五九七番

目次

一、女郎花物語〈内閣文庫蔵黒表紙写本〉……三
二、女郎花物語〈万治四年板本〉……二三
解説……二三七

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertong

女郎花物語

〈内閣文庫蔵黒表紙写本〉

凡　例

一、内閣文庫蔵和学講談所旧蔵黒表紙本（写本）を底本として翻刻した。

一、翻刻はできる限り底本に忠実であるようにつとめたが、当て字、誤字、脱字、送仮名、仮名遣、振仮名などはもとのままとし、漢字は通行字体とした。なお、私見は当該個所の右傍に（…カ）をつけて記し、また（ママ）としたのは原文のままを表わす。

一、濁点は、底本の通りに付けた。

一、解読の便宜を考えて、句読点を付けたが、仮名文であるため、なるべくこまかく切って施した。

一、説話の区切り方は、底本通り（底本に「一、……」と区切りがあるのに従う）とし、各説話の冒頭に、①②③……の順序数字を付けた。

一、右にしたがって、目次を私に作成して初めに掲げた。

一、各説話を内容上いくつかの段に分かつことができるものは、出典関係をも考慮して区切ることにし、改行した。

目次

序……一三

上

① しんざゑもんと申にようばうに……一五
② あるにようばうのいゑに……一六
③ 源三位よりまさのかたへ……一七
④ 京極さきのだいじやうだいじんのいゑに……一八
⑤ 一条のゐんの御とき……一九
⑥ 上とうもんゐんのにようばう……二〇
⑦ こべんと申にようばう……二一
⑧ るいじゆ百首の哥の中に……二三
⑨ あるふる宮のついぢのくづれより……二六

⑩ もとすけがむかしすみ侍りけるいゑの……二七
⑪ としのくれにことをかきならして……二八
⑫ 後鳥羽のゐんの御ときみなせにて……二八
⑬ 待賢門院のにようばうにかゞといふ哥よみ……三〇
⑭ あるおとこ秋の夜のつく〳〵とながきに……三一
⑮ ある人のいはくむかしおとこ女を……三三
⑯ 輔親ものいひけるをうなのもとに……三五
⑰ 定家卿あるだいりにようばうに……三五
⑱ むすめのもとにかよふおとこの……三八
⑲ あるおとこことの外まどしく侍りける……三九
⑳ すわうのないしまくらをがなと……四四
㉑ 花ぞのゝさ大じんのいゑに侍りける女に……四五
㉒ 夜かれせずまふできけるおとこ……四五
㉓ おとこうらむることやありけん……五一

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong

㉔ こよひかならずとたのめたる女のもとに……五二
㉕ むかしそとをりひめみかどを……五三
㉖ ふうふの中はかりそめのたはふれにも……五七
㉗ むこのためてこざりければ……五九
㉘ あるおとこ心かはりて……六〇
㉙ よしたゞのあそんつまのめいなりける女に……六六
㉚ ちか比のことにやつくしのたんだいもちたる人……六七

下

㉛ むかしやまとの国なりける人のむすめの……七〇
㉜ 文集にいはく蕭〻暗雨打窓声……七二
㉝ 京よりぐして侍りける女を……七七
㉞ 雨の中のさびしきにおとこ四五人……七七
㉟ 和泉しきぶおとこのかれ〳〵になり侍る比……八二

㊱ わかき女はつゐのよすがともちぎらん人を……八四
㊲ もろこしにかんの元帝と申けるみかどの御とき……八五
㊳ 哥はなにながれたる哥より……八七
㊴ とう二でうのゐんのはしたもの河なみに……九〇
㊵ 後れいぜんゐんの御ときあふみの国より……九一
㊶ おはりの国に京よりくだれりけるおとこの……九二
㊷ 女のれんがをすること……九三
㊸ ちか比れんがのじやうずといはれける人……九五
㊹ ある女おとこにつきてゑつちうの国に……九八
㊺ みちの国にすみける人の……一〇〇
㊻ さい行ほうしをよび侍りけるに……一〇四
㊼ としのぶがながされけるとき……一〇四
㊽ うか〳〵としたるをうな……一〇六
㊾ りつし実源がもとに……一〇七

㊿ 小式部のないしうせてのゝちに……一〇八
51 おやにかう〳〵のこゝろざし……一〇九
52 中ごろなまめきたるにようばう……一一一
53 女のさけをのむこと……一一三
54 此物がたりもとすゑもしらぬわらひくさの……一一五
55 和泉式部がいゑのまへをほうし……一一三

女郎花物語　上

（序）

それ和哥は、下照姫にはじまり、人丸を哥のひじりとして、うねめなりける女、あさかやまのあさからぬこゝろをあらはし、衣通ひめ、さゝかにのいとのながき世に、ことばをつたへ、をのゝこまちは、人のこゝろのはなやかなることのはを、よの中にのこし、伊せは、ゆくかりをしたひ、花なきさとゝながめ侍り。むかしのあとをつぎたまへる人ゝには、赤染のゑもん、むらさき式部、さがみ、しやうこにはちぬ哥仙なり。そのゝちのにようばうには、すわう、ひこ、やすすけわうのはゝなどぞ侍る。そのほか、としなりの卿のむすめ、後鳥羽院のくないなど、このみちけいこの人なり。かく、をうなのかせんおほく侍る中にも、伊せは、人まろのけしんのよし申つたへ侍り。業平は、また人まろと一たいなり。哥道をもて、ぶつだうをすゝめ、しゆじやうをたすけんがために、人まろさま〳〵にげん

じ侍り。されば、なりひらとは、ごうをたいらむとかけり。によにん、わうじやうすることかたくして、ざいごうやまつかのごとくに侍るを、たかき山もくづれて、平地になるがごとく、わうじやうのそくわいをとげしめんがために、おくねんむりやうごう、一ねん五百しやうとて、もろ〳〵のほとけのいましめそしりたまへる、をうなにちぎりをむすび侍る。なりひらは、ほんちばたうくわんをんなり。くわんをん、又弥陀と一たいに侍れば、ねんぶつのひま〳〵によむべきは、又哥のみちなり。おとこ女の中もやはらぎ、うしろめたくもあらで、をみなへしの一かたにこゝろをなびかし、おとこ山のむかしをまなび侍らんがために、をうなの哥どもをあつめ侍れば、なづけて、をみなへしの物がたりといふ。かく、をろかなることゞもに侍れども、いとけなきをうなの、てならひはじめのたよりにもやと、みじかき筆のすさひもはづかしながら、かきあつめ侍る。しつしやく、さだめておほからん。はうなんすくなからざるもの歟。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong